

## 1. 略歴

- 1994年3月 東京大学文学部西洋史学専修課程 卒業  
1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程西洋史学専攻 入学  
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科修士課程西洋史学専攻 修了  
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 進学  
1998年10月~2000年9月 ロシア連邦ロシア科学アカデミー・ロシア史研究所留学 (文部省アジア諸国等派遣留学生)  
2003年3月 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程西洋史学専攻 単位取得退学  
2005年10月 博士 (文学) 学位取得  
2006年9月 新潟国際情報大学情報文化学部情報文化学科 専任講師  
2010年4月 東京理科大学理学部第一部教養学科 准教授  
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

## 2. 主な研究活動

### a 主要業績

#### (1) 著書

『革命ロシアの共和国とネイション』(山川出版社 2007年11月) 223+lxiii 頁

#### (2) 論文

「ロシア共産党第12回大会民族問題部会の考察」(ソビエト史研究会編『旧ソ連の民族問題 (ソビエト史研究会報告第6集)』木鐸社 1993年7月)、47-86 頁

「ロシア革命と地方—サマール州を事例にとって」『ロシア史研究』56号、1995年3月、56-64 頁

‘Феномен советского бюрократизма в годы гражданской войны’, в кн.: Григорий Севостьянов ред., Академик П. В. Волобуев. Неопубликованные работы. Воспоминания. Статьи [「内戦期におけるソヴィエト官僚主義現象」(グリゴリー・セヴォスチャノフ編『アカデミー会員ペ・ヴェ・ヴォロブーエフ—未公開の仕事、回想、論文』)], Москва: Наука, 2000, pp. 356-363.

‘Большевистская политическая культура и деревня (1920 г. в Московской губернии)’, в кн.: Григорий Севостьянов ред., Право, насилие, культура в России: региональный аспект (первая четверть XX века) [「ボリシェヴィキの政治文化と農村 (1920年のモスクワ県)」(グリゴリー・セヴォスチャノフ編『ロシアにおける法、暴力、文化—地域的側面 (20世紀第1四半世紀)』)], Москва, Уфа: Изд. Уфимского государственного нефтяного технического университета, 2001, pp. 314-327.

「内戦期ロシアにおける労働理念—生産アジテーションの分析を中心にして」『史学雑誌』111編12号、2002年12月、1-35 頁

‘Между вождизмом и коллективизмом: проблема личности в политической культуре большевиков’ [「指導者崇拜と集団主義の間—ボリシェヴィキの政治文化における個人の問題」], *The Soviet and Post-Soviet Review*, vol. 30, no. 3, July 2003, pp. 221-243.

「内戦期のモスクワにおける党と行政」『スラヴ研究』51号、2004年5月、1-25 頁

‘Особенности государства и общества в СССР: новейшие подходы японских исследователей’ [「ソ連における国家と社会の独自性—日本の研究者たちによる最新のアプローチ」], *The Soviet and Post-Soviet Review*, vol. 31, no. 3, September 2004, pp. 309-324.

‘The reintegration of the Russian empire and the Bolshevik views of “Russia”: the case of the Moscow party organization’, *Acta Slavica Iaponica*, vol. 22, March 2005, pp. 120-140.

「革命期ロシアにおける全般的労働義務制」『史学雑誌』114編8号、2005年8月、1-33 頁

「内戦期のロシアにおける行政の自律性について—モスクワ市の事例に即して」『ロシア史研究』77号、2005年12月、20-35 頁

「革命期ロシアにおける労働とネイション・ビルディング」『ロシア史研究』78号、2006年5月、79-95 頁

「農村統治とロシア都市—市合同の分析 (1918-1921)」(奥田央編『20世紀ロシア農民史』社会評論社 2006年11月)、193-217 頁

- 「第一次大戦期ロシア帝国の保養地事業とナショナリズム」『19世紀学研究』1号、2008年3月、122-140頁
- 「スターリンのモスクワ改造」『年報都市史研究』16号、2009年2月、36-51頁
- 「専制、総力戦と保養地事業—衛生・後送部門最高指揮官オリデンブルグスキー」『ロシア史研究』84号、2009年5月、47-63頁
- 「ユーラシアの地政学としてのソヴィエト建築学—モスクワ、ノヴゴロド、北京」『地域研究』10巻2号、2010年3月、90-108頁
- 「ネップ期ソ連における国家と都市管理—内務人民委員部の活動から見る」『ロシア史研究』86号、2010年5月、31-47頁
- 「社会主義の都市アイデア」(吉田伸之・伊藤毅編『アイデア(伝統都市1)』東京大学出版会 2010年5月)、209-232頁
- 「Труд как способ формирования «советских граждан»: производственная пропаганда, 1920-21 гг.», в кн.: Салават Исхаков ред., Падение империи: революция и гражданская война в России [『ソヴィエト市民』形成の方法としての労働—生産プロパガンダ、1920-21年](サラヴァト・イスハーコフ編『帝国の崩壊—ロシアにおける革命と内戦』), Москва: Социально-политическая мысль, 2010, pp. 308-327.
- 「第一次世界大戦期ロシア帝国の衛生独裁—衛生・後送部門最高指揮官府の人員と構造」『東京理科大学紀要(教養篇)』44号、2012年3月、245-263頁
- 「帝国、国民国家、そして共和制の帝国」『クアドランテ』14号、2012年3月、81-99頁
- 「記憶の中のロシア革命—ロンム『十月のレーニン』とスターリン時代の革命映画」(塩川伸明・小松久男・沼野充義編『記憶とユートピア(ユーラシア世界3)』東京大学出版会 2012年6月)、101-126頁
- 「第一次世界大戦、ロシア革命、ネップ」(ロシア史研究会編『ロシア史研究案内』彩流社、2012年9月)、113-124頁
- 「ソヴィエト帝国論の新しい地平」『世界史の研究』234号、2013年2月、1-12頁
- 「敗北後のジノヴィエフ—『ヴェ・イ・レーニン』構想メモ」(中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社、2013年3月)、128-145頁

### (3) 訳書

ミヒャエル・シュトゥルマー『プーチンと甦るロシア』(白水社 2009年8月)、364+xxiv頁

### (4) 小論・書評・研究成果報告書・その他

- (書評)「E. アクトン著『ロシア革命再考』を読む」『スラヴ研究』42号、1995年3月、161-170頁
- (書評)「スターリニズム・党・ことば—富田武『スターリニズムの統治構造』、岩波書店、1996年」『ロシア史研究』61号、1997年9月、48-60頁
- (項目執筆)「ホイッグ史学」(樺山紘一責任編集『歴史学の方法(歴史学事典6)』弘文堂 1998年12月)、579頁
- (学界動向)「現代東欧(回顧と展望)」『史学雑誌』111編5号、2002年5月、386-390頁
- (新刊紹介)「マルク・ラエフ(石井規衛訳)『ロシア史を読む』、『史学雑誌』111編6号、2002年6月、104-106頁
- (新刊紹介)「Петроград на переломе эпох: город и его жители в годы революции и гражданской войны」[『転換期のペトログラード—革命と内戦の歳月における都市とその住民』]『ロシア史研究』71号、2002年10月、70頁
- (翻訳) J. バーバー「ソヴィエト研究の意義と将来」『思想』952号、2003年8月、2-5頁
- (学会報告) В. П. Булдаков, Ё. Икэда, 'Ежегодная конференция японских славистов', *Отечественная история* [ヴェ・ペ・ブルダコフ、池田嘉郎「日本のスラヴ研究者の年次大会」『祖国史』], no. 4, August 2003, pp. 215-217.
- (翻訳) ヴェ・ペ・ブルダコフ「20世紀初頭のロシア帝国に関する現代の論争」『ロシア史研究』73号、2003年10月、23-36頁
- (小論)「内戦期モスクワのアルヒーフ史料—革命家と官僚制」『歴史と地理 世界史の研究』579号、2004年11月、26-32頁
- (書評)「戦後ソ連史研究の遺したもの—溪内謙『上からの革命—スターリン主義の源流』」『思想』981号、2006年1月、68-79頁
- (新刊紹介)「Peter Holquist, *Making War; Forging Revolution: Russia's Continuum of Crisis, 1914-1921*」『ロシア史研究』77号、2006年1月、80頁

- (新刊紹介) 「グレイム・ギル (内田健二訳) 『スターリニズム』 『史学雑誌』 115 編 10 号、2006 年 10 月、125-126 頁
- (翻訳) ヴィクターリー・ナウハツキー 「1960 年代—1980 年代のロストフ州農村における労働力の可能性—行政的調整の試み」 (奥田央編 『20 世紀ロシア農民史』 社会評論社 2006 年 11 月)、597-627 頁
- (新刊紹介) 「ロバート・サーヴィス (中嶋毅訳) 『ロシア革命—1900-1927』 『史学雑誌』 116 編 1 号、2007 年 1 月、128-129 頁
- (書評) Kevin M. F. Platt and David Brandenberger, eds., *Epic Revisionism: Russian History and Literature as Stalinist Propaganda*, *Acta Slavica Iaponica*, vol. 24, March 2007, pp. 242-245.
- (小論) 「二つのレーニン論」 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 10 号、2007 年 5 月、1-7 頁
- (新刊紹介) 「Anne E. Gorsuch and Diane P. Koenker, eds., *Turizm: The Russian and East European Tourist under Capitalism and Socialism*」 『ロシア史研究』 82 号、2008 年 5 月、90 頁
- (項目執筆) 「アゼルバイジャン共和国」、「アルメニア共和国」、「ウクライナ」、「ウズベキスタン共和国」、「カザフスタン共和国」、「クルグズ (キルギス) 共和国」、「グルジア」、「タジキスタン共和国」、「トルクメニスタン」、「ベラルーシ共和国」、「モルドヴァ共和国」、「ロシア連邦」、「集団安全保障条約機構 (CSTO)」 (山川出版社編集部編 『世界各国便覧 (新版世界各国史 28)』 山川出版社 2009 年 8 月)、8, 11, 18, 20, 25, 26, 33, 36, 132, 154, 162, 169, 270 頁
- (新刊紹介) 「A. B. Репников. Консервативные концепции переустройства России」 [ア・ヴェ・レプニコフ 『ロシア再編の保守的諸構想』 『ロシア史研究』 85 号、2009 年 11 月、49 頁
- (座談会) 有田英也、池田嘉郎、木村靖二、篠原琢 「座談会 現代史研究と 1989 年—回顧と展望」 『現代史研究』 55 号、2009 年 12 月、57-91 頁
- (項目執筆) 「第 1 回万国博覧会、ロンドン」、「1 キンタル (50.8kg) あたりの香辛料の価格」、「ゴッホ 『ジャガイモを食べる人びと』 (1885 年)」、「火砲」、「花開くルネサンス」、「エルミタージュ宮殿」、「ヴェルディ」、「ワグナー」、「トルストイ」 (『世界の歴史教授資料』 編集部編 『世界の歴史 改訂版 教授資料』 山川出版社 2010 年 3 月)、24, 123, 151, 156-158, 180, 221 頁
- (新刊紹介) 「Mark Mazower, *No Enchanted Palace: The End of Empire and the Ideological Origins of the United Nations*」 『ロシア史研究』 87 号、2010 年 12 月、71 頁
- (書評) 「中澤達哉著 『近代スロヴァキア国民形成思想史研究—「歴史なき民」の近代国民法人説』 『東欧史研究』 33 号、2011 年 3 月、53-59 頁
- (書評) 「遅塚忠躬著 『史学概論』 『19 世紀学研究』 5 号、2011 年 3 月、147-153 頁
- (成果報告書) 「小シンポジウム 『第一次世界大戦と帝国の遺産』 趣旨説明」 『比較帝国論の世界—新学術領域研究第 4 班中間成果』 (平成 20-24 年度科学研究費補助金 研究成果報告書 研究代表者 宇山智彦)、2012 年 1 月、210-213 頁
- (翻訳) I. V. ロコヤーノフ 「和田氏の報告に対するコメント、加藤氏のコメントに対する回答」 『20 世紀初頭におけるロシアの対外認識—アメリカ観および日露戦争』 (早稲田大学ロシア研究所 国際シンポジウム報告集)、2012 年 3 月、169-172 頁
- (新刊紹介) 「Michael A. Reynolds, *Shattering Empires: The Clash and Collapse of the Ottoman and Russian Empires, 1908-1918*」 『ロシア史研究』 90 号、2012 年 6 月、146 頁
- (書評) 土屋好古著 『「帝国」の黄昏、未完の「国民」—日露戦争・第一次革命とロシアの社会』 『図書新聞』 3102 号、2013 年 3 月 16 日、3 頁

(5) 口頭発表

「ロシア革命と地方」ロシア史研究会年次大会、於一橋大学、1994 年 10 月 23 日

「ロシア革命—研究の再検討」ロシア史研究会年次大会、於東京工業大学、1997 年 10 月 26 日

「革命期ロシアの政治文化を考えるために—死者を悼むボリシェヴィキ」日本西洋史学会第 48 回大会、於福岡大学、1998 年 5 月 17 日

‘Большевистская управленческая культура и деревня: осень 1920 г. в Московской губернии’, Международная научная конференция «Право, насилие, культура в России: региональный аспект (первая четверть XX века)» [「ボリシェヴィキの行政文化と農村—1920 年秋のモスクワ県」国際学術会議「ロシアにおける法、暴力、文化—地域的側面 (20 世紀第 1 四半世紀)」], held at Ufa State Petroleum Technological University, Ufa, 8 June 2000

- 「ソヴィエト・ロシア形成期におけるボリシェヴィキの世界観と日常生活の再編の試み」史学会 99 回大会西洋史部  
会、於東京大学（本郷キャンパス）、2001 年 11 月 11 日
- 「内戦期のモスクワにおける党内秩序」ロシア史研究会年次大会、於西南学院大学、2002 年 10 月 26 日
- ‘The development of the imperial representation in the Russian Civil War: the case of the Moscow Bolsheviks’,  
International Workshop by Junior Scholars, held at the Slavic Research Center, Hokkaido University, 31  
January 2004
- 「革命期ロシアにおける労働、コミュニケーション、ネイション」ロシア史研究会年次大会、於成蹊大学、2005 年 10 月 23  
日
- 「第一次大戦期ロシア帝国における保養地事業」日本西洋史学会第 56 回大会、於千葉大学、2006 年 5 月 14 日
- 「現代都市類型から見た 20 世紀モスクワ」都市史研究会シンポジウム、於東京大学（本郷キャンパス）、2007 年 11  
月 11 日
- ‘Труд как способ формирования «советских граждан»: производственная пропаганда, 1920-21 гг.’,  
Международная научная конференция «1917 год и гражданская война в России: новые документы,  
подходы, взгляды» [『ソヴィエト市民』形成の方法としての労働—生産プロパガンダ、1920 - 21 年』国際学術  
会議「ロシアにおける 1917 年と内戦—新しい文書、接近法、観点」], held at the Saratov Regional Museum of  
Local Lore, Saratov, 29 August 2008
- 「専制、総力戦と保養地事業—衛生・後送部門最高指揮官オリデンブルグスキー」ロシア史研究会年次大会、於名古  
屋学院大学、2008 年 10 月 12 日
- 「都市と対峙するボリシェヴィキ政権—公営事業、『寄生分子』と内務人民委員部、1921-28」ロシア史研究会年次大  
会、於法政大学、2009 年 10 月 11 日
- ‘Cultural and social relations between Russia and Japan during World War I, International Council for Central  
and East European Studies (ICCEES) VIII World Congress, held at the Stockholm City Conference Center,  
Stockholm, 27 July 2010
- 「趣旨説明」および『共和制の帝国』の誕生—第一次世界大戦とロシア革命』日本西洋史学会第 61 回大会小シンポ  
ジウム 2 「第一次世界大戦と帝国の遺産」、於日本大学、2011 年 5 月 15 日
- ‘Toward an empire of republics: transformation of Russia in the age of total war, revolution, and nationalism’, The  
6th International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia, held at the  
Slavic Research Center, Hokkaido University, 20 January 2012

### 3. 主な社会活動

#### (1) 非常勤講師

- 東京理科大学理学部（2004～2006 年度）  
成蹊大学文学部（2004～2005 年度）  
日本大学通信教育部（2004 年度）  
敬愛大学経済学部（2005 年度）  
新潟国際情報大学情報文化学部（2010 年度）  
新潟県立大学国際地域学部（2011 年度）